

公益社団法人日本理科教育振興協会第50回定時総会文部科学大臣祝辞

本日、公益社団法人日本理科教育振興協会第50回定時総会の開催に当たり、一言御挨拶申し上げます。

皆様方におかれては、日頃から子供たちや教師が観察・実験で活用する優れた理科教育教材を開発し、理科教育の充実・発展に多大なる御尽力をいただき、心から感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の対応に当たっては、依然として厳しい状況が続いておりますが、感染症対策を徹底しつつ、最大限子供たちの健やかな学びを保障することが重要です。文部科学省としては、感染症対策と子供たちの学びの保障のための取組を両輪として、一層しっかりと進めていきたいと考えています。

昨年度より、小学校の新しい学習指導要領が全面実施となり、今年度からは中学校でも新しい学習指導要領が全面実施となります。子供たちが、予測不可能な未来社会を自立的に生き、主体的に社会の形成に参画するための資質・能力を育むために、理科教育は大きな役割を担っており、皆様方におかれては、引き続き御支援・御協力くださいますよう、お願いいたします。

さて、今年1月に、中央教育審議会において「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」が取りまとめられました。

急激に変化する時代の中で、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手になることができるよう、その資質・能力を育成することが求められています。

本答申において、こうした資質・能力を育成するため、ICTを活用しつつ、学習指導要領を着実に実施することが重要とされています。併せて、2020年代を通じて実現すべき学校教育の姿を「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学び」とし、令和の日本型学校教育の構築に向けた改革の方向性と、今後進めるべき具体的な取組が示されています。

文部科学省としては、本答申を踏まえ、日本理科教育振興協会をはじめ教育関係機関の皆様とも連携しながら、必要な取組を進めてまいります。

結びに、貴協会のますますの御発展と、皆様の一層の御活躍を祈念いたしまして、御挨拶といたします。

令和3年5月20日
文部科学大臣 萩生田 光一